

問い② 課題解決の問い

それでは、東北の各藩は、 どうすればよかったか？



立命館大学
OIC 総合研究機構
稲盛経営哲学研究センター
金井文宏客員教授
(RITA LABO 担当)

全て実行したのが、米沢藩の上杉鷹山。紅花や養蚕等の商品作物の栽培を振興して藩の収入を増やす一方、江戸滞在等の諸費用を節約、領内の米や現金の蓄えを増やしました。

上杉鷹山のエピソード

- ①鷹山は参勤交代の費用を節約するために、大名行列を大幅に縮小。幕府からお咎めがないように、江戸に入る直前に多くの人手を雇い、行列の見栄えをよくして江戸入りした。
- ②多くの武士を帰農させて、養蚕等の新たな商品の作り方を教え、藩経済に寄与させた。

この日は、見学に来ていた金井さんが、クラカンに呼ばれて飛び入り参加。クラカンの根元的な問い「なぜ東北で米を作らなければならぬのか」を受け、江戸期の脱米の藩政について、生徒に藩主になったつもりで答えさせる課題解決型の問いを投げかけました。失敗すると、領民の半数近くが餓死してしまうことなど、藩主の責任の大きさも伝えました。

議論の後、 実際の解決例を紹介

- 飢饉を乗り切るために各藩ができる解決策は、3つ考えられます。
- ①江戸時代中期以降の経済は、米が安く、さまざまな商品作物の値段が高い。米価安諸色高の状態。米の替わりに、東北(寒冷地)でも育ち、江戸・大阪で高く売れる商品作物を植える。
 - ②参勤交代や江戸藩邸にかかる諸費用を倅約し、飢饉の時には米を領内に留めて領民にまわす。
 - ③餓死者を出さないため、寒冷に強いそばなどの作物を非常時の領民の食糧用として栽培しておく。当時、飢饉の時に食べられる野草や木の実を書いた本が米沢藩で出版され、農民たちの間で読まれていた。



米沢藩を救った商品作物のひとつ、紅花

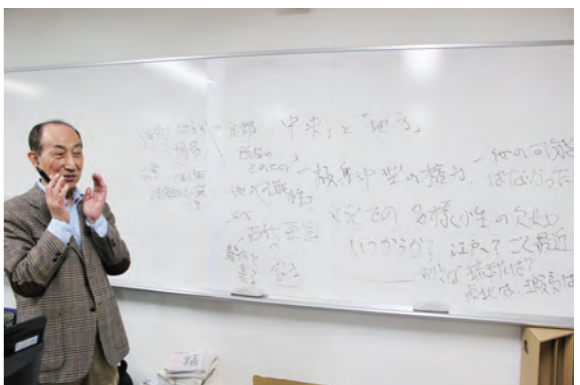
この①～③の解決策を藩政改革で

なお、このような対策を取らなかった南部藩では、飢えた農民たちが食糧を求めて他藩に逃亡しようとしたが、藩境は隣藩によって閉ざされており、多くが領内で餓死しました。

歴史から現代を見る

幕府と藩の関係は、現在の国と地方自治体の関係と類似した面があります。つまり、地方自治のやり方により、独自の地域振興ができる可能性を示しています(地方創生！)。

日本史や世界史の授業では、過去の出来事を覚えることなく、史実から学ぶことが重要です。リベラルアーツでは、当たり前とされている歴史を疑い、歴史の可能性を探究すること、あるいは現在から未来を構想する(世界へ国家へ地域社会のあり方を考える)素材となる考え方を、耕すことが求められています。



クラカンに聞く!

なぜ今、リベラルアーツを学ぶのか？

金井 倉石先生は、授業では「問い(何を考えさせるか)が一番大事」とも言っていますね。

倉石 そう、「戦国時代に、権力をどこに作るのか?」という授業では、戦国時代には権力分散型で、江戸時代から日本は権力集中型になったという意味を考えさせたかった。日本は戦国時代に、「二つ三つと別れていった可能性があったかもしれないということ」をね。

天下人になりたいと考えた戦国大名は、皆、京都という場所を目指したけれども、後に家康が江戸に移したということは、実は別の場所でもよかったと言える。つまり、戦国時代に、権力を奪いに京都に上るのではなくて、別の場所に権力を作った独立するという大名がいちもおおしくない。そこで「どこに権力を作ると強力か?」って聞いたわけ、考えとてくれ。

そこでポイントとなるのが、中央権力として何が必要なのか。そういうものを持っている場所って、戦国時代、京都以外になかったのかと。

金井 その問いは、かなり面白いですね。

他の可能性を問うことで議論が深まる

倉石 東大入試では「戦国時代に大名は、天下人になるため京都を目指した。では、京都には何があったか?」というような問いになる。これでは教科書にも書いてあるので、パッと正解のようなものが出てしまう。議論にならないし、深まらない。

ところが、「どこかに別な権力を作った独立するとしたら、君たちならどこに作る?」と問うと、おもしろい議論が生まれる。島根と答えた生徒に「何で?」と聞くと、「島根は銀の産出がすごい(大森銀山)。世界の銀の何分の一かを出している。鉄もある。この頃、日本は世界で貿易をやっていたので、島根は銀の産出を基盤に、海外貿易を中心とした国家を作れば、京都より独立しやすい」と答えた。ただ、「文化的宗教的権威は島根にあるのか」と聞くと、その生徒は展開不足で答えられなかつ



クラカンのリベラルアーツ観や、授業のポイントを、RITA LABOの金井文宏教授がインタビューしていきます。

た。島根には、出雲神話・出雲大社があるので、権威はある。経済的には銀でいく。いちばん多かったのは、博多という意見。一つ目の理由はやはり貿易。博多はこの当時、経済的には京都と並んでいて、貿易は日本の流通の中で大きなウエイトを占めていた。鎖国でないから、博多はヨーロッパや中国との貿易の中継地にもなりやすくと、何人かの生徒は考えた。国内の端にあるとはいえ、日本海や瀬戸内は全部押さえられ、経済的な中心になることは可能だ。

二つ目は朝廷や將軍の権威。これは中国王朝と組む。古代や室町時代の前例もある。そうなると、朝廷よりも上にいけると考えた。四国には武士団に加えて海洋的な力があり、貿易も武力も京都より強そう。皆で考えていったのは、歴史的には鎖国になって国内だけの流通になったけど、海外貿易が続いていたら、日本はもっとアジアへ行くことになって、そうなると九州は京都の朝廷よりさらに広い世界につながっていくということ。経済の力としては、貿易の富の方が大きいわけだから、日本国内の経済よりも上回るものが貿易で入ってくるとすれば、博多の方が京都の政権より上になる。

こう考えていくと、東大2次試験のような「問いに対する正解を答える」ということではなく、「政治権力の本質とは何か?当時の世界史の中で、日本でも海洋国家的なあり方を実現できたか?」などと自由に展開していくことが重要。そうでないと、日本史の決まりきった既成の枠組みの中で正解を出すという、単調な口ジカルシンキングになる。

金井 海洋国家の権力の中心としては、西国の方が京都より圧倒的に有利。実際、大内氏があれば日明貿易で儲けていたことを考えると。

クラカン日本史リベラルアーツ発問集

Q1 漢字の読みと中国からの文明伝播の時期

日本語の漢字が、中国から伝わったものであることは周知のことである。その際に、その読みも伝わっており、中国伝来の読みは音読みと言われ、今日に残されている。この音読みには、右の表に示されるように、3通りの読みをする漢字がある。それは、中国からの文化の伝来の3つの大きなピークを示している。第1の呉音は中国南部江南地域からの音、漢音は長安など都のあった黄河流域地方の音、唐音は呉と同じ地域の音で宗教関係に関わる音が多い。それぞれの読みの伝播した時期と、その文明伝播の特徴について記せ。

漢字	音読
行	ギョウ
	ヨウ
	アン

Q2 漢字・ひらがな・カタカナと識字率

近世の日本は、識字率が高かった。それは寺子屋の普及もあるが、3種類の文字を持っていたことが大きな役割を果たしたと言われる。それぞれの文字を誰が使ったかということヒントに、その理由を考えよ。

Q3 江戸時代の対外窓口と明治以降の過去認識

1 江戸時代における対外関係について、18世紀、通商を求めたロシアに対して幕府代表の遠山景晋が答えたところによれば、幕府は公式な認識として、対外的な窓口を、薩摩・長崎・対馬・松前の4つとしており、通商はオランダ・中国・朝鮮・琉球・蝦夷としていた。しかし、明治以降、鎖国下での「世界の窓」は長崎だけと記されるようになり、16世紀に渡来交流していたヨーロッパへの窓は「鎖された」といった記述になる。他の3つの窓はなく、中国・朝鮮・琉球などは、相手国としての記述が無くなる。それが再び登場するのは1970年代のこと。それはなぜか。

2 江戸時代の「当事者の事実」は明治以降の「過去認識」には入ってこなくなった。その背景には、明治以降の日本人が「世界」をどのように捉えていたかを反映していたと考えられる。歴史家のE. H. カークが言ったように「すべての歴史は現代史」であったといえる。では、明治以降の「世界」についてのどのような捉え方が、こうした記述に反映していると思うか。考えを述べよ。

Q4 書物が庶民に広まった理由

江戸時代には、木版による大量印刷という技術が生まれ、例えば浮世絵などは多くの庶民も手に入れることができた。本も「東海道中膝栗毛」のような庶民向けのものが出版されたが、何ページもの印刷になるため、それほど安いものではなかった。それでも「東海道中膝栗毛」を多くの庶民が読めたのは、貸本業が生まれたからである。それでは、貸本業のリスクは何か。それでもこの時代に貸本業が成立したのは、人々の意識・観念がどのようなものだったからか。

Q5 明治政府と徴兵制

明治政府を作ったのは旧武士である。ところが彼らは、近代国家を作る時、徴兵制を取り入れた。それは、出身母体である武士階級に対する裏切り行為ともいえる。それでも彼らが徴兵制を取り入れなければならないと考えた背景は何か。

RITA LABOホームページにて、上記の発問に対する、クラカンの解説等を掲載しています。併せてご覧いただき、ご自身の授業でご利用ください。 <http://www.ritalabo.jp>

世界史とのつながりから新しい日本史を考察する

倉石 日本人というのは、商業民族というのが理解しにくい。貿易で強力な国家を作るイメージがない。実際、日本史を見ても、商業で成り立っている国家はないんですよ。全部農業へ行っちゃう。ところが世界的にはあるじゃないですか。遊牧国家とか、イタリアの商人とか、あるいは重商主義のオランダやイギリス。

金井 中東のキャラバン都市、ダマスカスとかもある。日本だと大阪商人が一番近いけれども。

倉石 この議論をやり出すと、先生の方がわからなくなってくる。

金井 本場に日本人って商業が弱い。

倉石 日本では、商業は倫理的に下に思っ、発想の中になんだよね。多文化というのも苦手だ。

金井 士農工商で、多文化を相手にする商が一番下。

倉石 高校生にとっては、豊臣や徳川が九州を押さえて鎖国になったイメージが猛烈に強くて、あの時代に海洋国家になって琉球から中国・東南アジアへ伸びていく可能性があったということが、全く構想できない。

金井 世界史なら、石見の銀っていうのが、世界中の貿易の価格革命を起こして、メキシコのポトシ銀山と石見の銀山で世界の銀の流通が2〜3倍になった。だから、銀を持っていくと大金持ち。

倉石 ところが、その意味が日本人にはわからない、全く。島根でもわかっていない。

金井 授業の最後に「これから30年たったら、世界の経済の中心ってどこになると思う？」と聞くと、生徒はアジアって言う。日本の中で一番アジアに近いのは、博多や島根だ。「だとすれば、ここはかつてのようにならぬ心になり得るでしょ？」と。ところが、島根が日本の中心になるというイメージがわからない。島根は田舎のままいくと。

倉石 だからおそらく、島根が権力を持つと言った生徒も、銀を中心とした海洋貿易国家は構想できない。

金井 室町時代は貨幣経済だけど、日本史では一番わかりにくい時代で、こういうことを教えきれない。

倉石 結局教えているのは、分かりやすいことだけ。都市といえば文化の話ばかり。將軍がああしたこうしたってことしか言っていないから、日本は島国で村でということだけが頭に残っている。

金井 江戸時代に作られた日本の原イメージ。

倉石 トを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

金井 リベラルアーツの授業は、問いとテーマ設定が大事。二番目は、先生と生徒、生徒同士がディスカッションを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

倉石 プロジェクト学習でも、課題や現実と自分の考え方がコンフリク

金井 リベラルアーツの授業は、問いとテーマ設定が大事。二番目は、先生と生徒、生徒同士がディスカッションを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

倉石 ションのレベル、議論のプラットフォームのレベルを上げて考え方を深めていくということ。議論している中で、その地域・時代の本当の課題が少しづつ見えてくるという。倉石 灘校ではできなかったけど、ヨハネの森コース（国際暁星学園）のように、議論がある程度進み、テーマ設定ができたところで、興味のあ

倉石 例えれば海洋の話をする、イスラム教徒だった明の鄭和は、大船団で海を渡って、インドネシアとかマレーシアに本拠地を作って、イスラムのネットワークを築く。それが財産になって残っていくわけですよ。華僑とかみみたいな形で。

金井 実は日本も、日明貿易をしたり、信長、秀吉は南蛮貿易にも熱心だった。東南アジアに日本人町がいっぱいあった。

倉石 貿易を海洋文化とする地域がある。だからそういう道もありえた。色々な民族のところに行って、交流しながら新しいものを作った。金井 銀の革命の時代に、香辛料とか砂糖、コーヒーとか力カオなど、アジアやアフリカで生産させて、ヨーロッパの文化スタイルに落とし込んでいきますよ。一方、現地では奴隷労働が広がりますが…。これがヨーロッパ人のやり方です。

倉石 実は、日本にもその可能性があった。

金井 でも、その可能性を潰した。

倉石 そういうことを全部忘れて、鎖国して、日本は米中心の単一民族だという文化になってしまった。そういう歴史観や常識を揺さぶって、「生徒たちの思考の枠組みの中に、可能性とか方向性とかをつくっていく」と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

というのが一番大きい問題で、リベラルアーツの本質だと思う。

思考を始動させる「問いかけ」とテーマ設定

金井 倉石先生の日本史の授業は、授業の最初の「問い」が「うーん」となるほど面白いと、授業を受けた生徒が言っています。社会科の授業は「議論したくなる」ような面白いテーマ設定が大事で、それがリベラルアーツの入力口。倉石さんはいつも奇想天外な、常識を疑うような問いかけをする。日本史の最初の時間で、「この日本史の時代区分は正しいのか？他の区分のやり方はないのか？」と挑発するのは有名で、みんなが当たり前としている地盤を崩してしまう先生なんです。

倉石 小学校では、そういう授業結構やっているんですね。ところが、小中高大と、生徒はだんだんしゃべらなくなってくる。おそらく日本の一番困難な点は、生徒が自発的にしゃべらない点。思ったことを口に出して言える場所がなくなっている。

金井 特に高校がそうになっている。

倉石 そうですね。規律が内面化しているというか、発言しても仕方ないときらめられている。ある時期までは礼儀正しさを規律はあった方がい

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

と突っ込んで研究しよう！と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。